

新しいマクロ経済理論の構築を目指して

まえがき

本特集は少し欲張って、「新しいマクロ経済学の構築を目指して」と銘打った。これには一定の理由がある。すなわち最近のマクロ「理論」は、DSGEに象徴されるように、完全にコンピューターにおんぶに抱っこで、何が原因で結論が得られているのか不分明なものが大半である。またそうしたコンピューターのご託宣を、なんら疑問と思わない研究者も若い層を中心に急激な勢いで増加している。

編者の考えでは、理論とは簡潔な因果関係の記述であるべきであり、すべからく解析的(analytical)に解ける範囲で構築されることが強く望まれる。つまり経済学を専攻しない人々にも数学的衣装やジャーゴンを剥がして、私の分析していることは、これこれこうなのだと説明できないようでは、もはや社会科学とはいえないというのが、編者の立場である。

東日本大震災の影響もあり、今ほど経済学の鼎の軽重が問われている時はない。経済学を職業としている者が、すべからく良識ある経済学者であるとは、とても言えない危機の時代にあるというのが、編者の認識である。危機への対処はクリアーでシンプルな理論の構築によるしかない。マスメディアを徘徊する「マスコミ学者」を淘汰するためにも、こうした地道な経済学改造の試みは重要であると考えてる。

本特集は、すべて解析的な手法で解かれた理論7本、初学者にも理解できるように丁寧に書かれた計量経済学の論文1本で組まれている。いずれも力作ぞろいで、読者諸賢におかれては、是非味読していただきたい。

最後になるが、多忙にもかかわらず編者の「無謀な」試みに付き合っていたいただいた、酒井良清教授、柴田章久教授、玉井義浩准教授、宇南山卓准教授、松岡多利思氏に心から感謝申し上げたい。また審査を経て力作を掲載してくれた、松井宗也准教授、鈴木遼氏にはこれを励みとして、更なる研究の進展を祈念申し上げる。

2011年7月16日

編集責任者 大 瀧 雅 之